

イギリス、マンチェスター

Christopher Moss

2017年5月に、イギリスとマンチェスター市の代表として日本で開催される国際会議に私が行くことになったと初めて知った時は、どのようなことになるか全くわかりませんでした。興奮と不安、好奇心で胸がいっぱいになってしまいました。私が、この会議に参加する二代目の代表ということで、平和に関する自分の見解と理解を伝えると同時に、他の参加者の見解も聞かなければならないと考えました。

青少年国際平和未来会議(IYCPF)2017には、3つの大陸から合計9ヶ国を代表する44名が参加しました。様々な年齢、バックグラウンドを持つ参加者が集まっていたので、海外旅行時に直面するような制限はあまり感じませんでした。充実したプログラムでしたし、交流を目的とした会議でしたので、参加者はお互いに自由にかかわることができ、それぞれの相違点や類似点を個人的に、そして文化的に理解することができました。

会議では、参加者全員または7人グループで多くのアクティビティや散策をしました。私のグループには、日本からの参加者3人、中国からの参加者2人、ロシアからの参加者2人がいました。私達は毎日、朝食と夕食を一緒に取り、お互いのことや、それぞれの国の生活を知る機会を持つことができました。私は、グループのメンバーや他の参加者と、楽しい会話をすることができました。正直、それがIYCPFで得られた最も貴重な経験の1つであったと感じています。平和という地球規模の問題に取り組むためには、自分の意見や考えを共有し、相互理解につなげるよう、世界中の人々と有意義な話し合いをする機会を持つことが必要不可欠なのです。

相互理解を深めていくと同時に、過去の過ちを学び、核のない平和な世界を実現するために努力していくことが大切であると、より深く認識しました。このプログラムで、1945年の悲劇に関する、より深い知識を持てるようになりました。私達は8月6日の平和記念式典に出席し、被爆者の話を聞いたり、平和資料館を見て回ったりしました。この経験により、非核運動の重要性について納得がいくようになりました。また、1945年の出来事に対する日本人の向き合い方について知ることも、私にとっては非常に価値あるものとなりました。

今日、何が起こるか分からない危険な時を過ごす中で、より平和な世界を追求するために、私達自身がどのような役割を担うべきなのかを考えることが、今まで以上に大切になってきています。IYCPFでは、平和とは何か、そしてそれを達成するにはどうしたら良いかを共通理解できるよう努力しました。このことを踏まえて、広島で経験したことから得た教訓を私の友達、同僚、そして、より多くの人々と共有することが、私にとって最も重要な役割だと考えています。9月20日、マンチェスター市議会で私の元同僚にIYCPFの経験を詳しく話しました。同日、マンチェスター・メトロポリタン大学の2年生にも話をしました。10月には、マンチェスターの子供たちに私の経験や、私が学んだ教訓を話す機会が

持てるかもしれません。私の心にいつまでも残るこの旅を支援して下さった広島教育委員会のみなさんには、本当に感謝しています。そして、より平和な世界を実現するために必要なことを共有していくことが、IYCPFの代表としての私の責務です。

今や、これまで以上に広島と長崎の教訓を心に留めておくことが大切になっています。紛争には、尊敬と知性で対応し、世界の社会の安全と繁栄を確かなものにしていくには、平和的解決策を確実に講じていかなければならないのです。